

尾張旭市自然環境基礎調査 報告書（概要版）

1 調査の目的

本市の自然環境に関しては、2000（平成12）年度に調査を実施してから20年以上が経過しており、地球温暖化の進行や都市基盤整備などに伴い、その実態は大きく変化していると考えられます。そのため、市内の自然環境の分布や動植物の生息・生育状況に関する実態調査を行いました。

2 調査の概要

調査の概要は以下のとおりです。

事前調査	市民団体等のヒアリングと文献等調査により市域の特性、過年度調査の結果整理、生態系に関わる情報の収集・整理を実施しました。
現地調査	＜調査地点＞ 生物の生育・生息環境、市内全体のバランス、市域自然環境基礎調査報告書（平成12年度）との経年比較、生態系ネットワーク形成の要素（供給地・大拠点、点在する緑、回廊）等の観点から、33調査地点を設定し調査しました。 ＜調査時期＞ 令和4年2月～令和4年10月



図 現地調査地点



図 調査実施状況

3 今回の調査で確認された重要種等

御城田池

- ・ミナミメダカ
- ・ツマグロキチョウ
- ・ハルリンドウ
- ・クロミノシゴリ
- ・ニホンアカガエル
- ・シオカラトンボ



ミナミメダカ



クロミノシゴリ



ハルリンドウ

維摩池

- ・イシガイ
- ・カワセミ



イシガイ

吉賀池

- ・ドジョウ
- ・ヌマトラノオ
- ・サクラバハノキ
- ・ミズギク
- ・ツマグロキチョウ
- ・ミナミメダカ
- ・ハルリンドウ
- ・シラタマホシクサ
- ・ワレモコウ
- ・モウセンゴケ
- ・ニホンアカガエル
- ・ハッチョウトンボ
- ・アカマツ
- ・ツマグロキョウモン



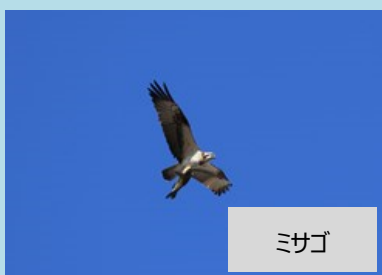
ドジョウ



サクラバハノキ

長池

- ・マメナシ
- ・アイナシ
- ・ミサゴ
- ・オオタカ



ミサゴ



オオタカ

マメナシ群生地



エドヒガンザクラ



小幡緑地東園

- ・コゲラ
- ・コサメビタキ
- ・ニホンヤモリ
- ・アオスジアゲハ



コゲラ

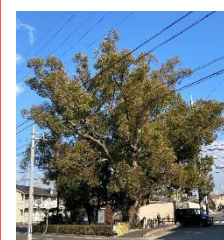


コサメビタキ

クスノキ (渋谷町)



クスノキ (柏井町)



森林公園

- ・ドジョウ
- ・ツマグロキチョウ
- ・ズミ



ツマグロキチョウ



ズミ

平成 29 年ニホンカモシカ
捕獲場所
(現在豊橋総合動植物公園
(のんほいパーク) へ移送)



図 緑の将来像
資料：緑の基本計画
(令和 2 年 3 月中間見直し版)

<水田>

- ・マルタニシ
- ・ナゴヤダルマガエル
- ・ナガオカモノアラガイ
- ・ヒメタイコウチ



マルタニシ



ナゴヤダルマガエル



ナガオモノアラガイ

矢田川

- ・トノサマガエル
- ・ヤマトアシナガバチ
- ・ナガオカモノアラガイ
- ・ススキ
- ・カルガモ



トノサマガエル



ヤマトアシナガバチ

4 まとめ

●ため池等の自然の維持

市域の地形等の変化としては、1960（昭和 35）～ 2000（平成 7）年頃にかけて、各地で開発が進められたことにより急激に人口が増えましたが、その一方でため池や田んぼなどの自然環境は大きく減少しました。

緑被率でみると、1959（昭和 34）年の 71.0%から、2003（平成 15）年の 24.1%へと大きく減少しましたが、それ以降は減少に歯止めがかかり、平成 29 年において 22.9%を維持しており、前回調査時（2000（平成 12）年度）と比べ、緑は概ね保全されていると考えられます。

都市計画法上の市街化調整区域や都市緑地法に基づき緑の基本計画で設定する緑化重点地区の指定などにより緑地の保全が図られていると考えられますが、緑豊かなまちとしていくためには、今後もより一層の維持に向けた取組が必要であると考えられます。

●希少生物の生息環境の維持

市内には、広範囲に自然環境を保全している森林公園や周辺の丘陵地、ため池などが残されており、こうした場所において希少生物となっている重要種は、前回調査と比較しても、大きな減少はみられませんでした。これらのことから、市域全体での自然は減少しているものの、公園やため池、社寺林などの形で保全されている自然においては、一定程度の生息環境が守られていることがわかります。

特に、シラタマホシクサやマメナシの減少が見られなかったのは、自然保護活動による賜物ですが、保護活動団体の意見として、団体員の高齢化による活動の停滞や、開発行為による環境変化を危惧していることが挙げられており、このような問題への対策が今後必要と考えられます。

●外来種の増加

ミシシippアカミミガメやウシガエル、オオキンケイギクといった日本各地で生息域を広げている外来種が確認されたほか、県内で近年増えているとされるメリケントキンソウなどの外来種もみられるようになってきています。

外来種の増加が在来種の減少につながらないように、外来種の駆除を適切に進める必要があると考えられます。

●地域特性を生かした生態系の保全

尾張旭市人口ビジョンによると、本市では、2060（令和 42）年には人口のピーク時から2割程度減少することが予想されていますが、人口減少による空き家や空き地、放置田畑等の増加が懸念されるため、適切な土地の管理や有効活用の取組を進めることが必要と考えられます。

また、生態系の拠点となっている市北部の森林公園や湿地、南部の矢田川や田んぼなどで、確認される生物種としての関連から生態系のつながりがあることがわかりました。

今後は、生態系ネットワークに配慮しながら、自然と人との共存共生を進めていく必要があると考えられます。

尾張旭市自然環境基礎調査報告書（概要版）
令和5年3月

企画・発行：尾張旭市 市民生活部環境課
調査・編集：株式会社 創建



公益財団法人
瀬戸信用金庫
地域振興協力基金

この事業は、（公財）瀬戸信用金庫地域振興協力基金からの助成金を受けて実施しております。